（前号まで）　　カムイ伝

かつて浪人**水無月右近**にやぶれ、脱藩し、剣をみがき、宿敵を求めていた**笹一角**は、ついに右近と対決した。だが、そこで知ったのは、日置藩財政窮乏の期をつかみ、野心家目付役**橘軍太夫**の策謀にかかり、次席家老**草加勘兵衛**とその一門、また、自分のあとをつぎ剣法指南役をついだ**弟兵馬**の死であった。

怒り心頭に達した一角は、ひた走りに日置城下へ向かった。まず、草加一門の裏切り者**十兵衛**の家にたちより、怒りの刃をふるった。父をかばって斬死した**鈴**の前で、十兵衛から家老の一子**竜之進**が生きていることを知らされる。そして、一角は十兵衛の本心を知る。悪臣軍太夫を倒すための復讐の芽として残った十兵衛は、用意した抜け穴から一角を逃がすのだった。

だが、**横目**の追求はきびしかった。犬をつかい、刻一刻と望月領へ逃がれる一角を追いつめ、ついにその一角は横目の術中におち、あわやというとき**謎の雲水**の出現によって救われる。それにしても、この雲水に身をやつした忍がなぜこの日置藩の近辺を徘徊するかはあきらかではない。一角を救ったのも、ただ単なる偶然や同情心からでもなさそうだ。それは、横目を殺さず、非人頭弾左衛門のスミツキ書状によってしばったことも含めて、なにか大きな背景を感じさせずにはおかない。

さて、話は一変し、例の**白狼**の世界へ戻る。

他の何ものをもよせつけない一匹狼**片目**と、白さゆえに生れおちたときからの一匹狼との会合は、奇妙な出来ごとであり、さらにこの出合いは、不可思議な現象を出現させた。それは、二つの一匹狼がそれゆえに結合し、**三ツ目**にひきいられた狼の群との対決の中で、いつか協同作戦をとるようになっていったことである。

やがて二匹は、二匹であるあいだは一匹狼ではなかった。が、この二匹の巧妙な作戦も、大きな群の組織にはとうぜん歯がたたなかった。

いつか二匹は人里へ追われていった。ここで、かつて人里にあった白狼の経験は生かされ、きびしい冬を二匹は野犬との対決の中で生き抜いていった。

やがて春が近づき、仔供を産むために狼の群は散っていく。かつて二匹の一匹狼らもまた山にかえっていったのである。

目次

月刊漫画 ガロ 九月号

編集・赤目プロ
表紙・白土三平

1965年6月4日　カムイ伝⑩完　（禁転用転載）　つづく

（後記）

もちろん、ここでかの巨大な山男の叫んだ怪声は、**白狼**に対しての感嘆と尊敬の叫びととってもらいたい。
かつてこの**山丈**が非人村で幼児であった**カムイ**からニギリメシをもらい、「カムイ」と叫んだ意味と対比させればあきらかに異るものであるが、人の心の強さ、美しさ、豊かさに、喜びと尊敬の感動があるとすれば、この叫びは一つのものとなる。

これ以後、この白狼も“**カムイ**”と**狩人**仲間からも呼ばれ、この物語の中でもそのように呼ばれてゆくだろう。

今回は花巻村下人**正助**個人に話がしぼられてしまったが、当時にあって、下人が禁止されていた読み書きの獲得によって百姓内における支配の力関係に大きな変化をもたらしたことは、支配体制が野蛮かつ単純であってみれば、大きな出来ごとといえる。

持って生まれた天性が、彼の成長とともにいかに展開してゆくか、期待されるのである。

現在の教育問題にしても、例をあげればきりがないが、教科書、とくに歴史に関する検定はあきらかに逆コースをめざすものであり、ここに、進歩した意味で正助的勉学が要求されるのである。

支配者のやることは、文化が進み、高度に発展した段階にあっても、やることは同じである。遠くから来たりて遠方へ行かんとするわれわれは、これをさえぎるいっさいのものとやすみなく斗かわなければならない。

また、非人カムイの夢は、剣から忍法へ、そして或る日、こつぜんと消息を断った。一方、カムイを求める**サエサ**のまえにも苦難の道がひらかれはじめた。

いずこかに身をかくし復讐をねらう**竜之進**、これを助けるべく向かった剣客**笹一角**、**横目**との対決をねがう奇剣士**水無月右近**、これらが日置領を中心にめぐりあい、いかなる形で対峙し、対決し、何をなすか、そしてその結合の中で何を見、何が世の中を動かすか、回を重ねてゆくなかでみてみよう。

白土三平 傑作マンガ連載案内

本誌連載の「カムイ伝」でおなじみの白土三平先生の傑作マンガが、各誌に連載されて、全国の読者から爆発的な人気をよんでいます。

☆「風　魔」　少年ブック（集英社）新連載
☆「サスケ」　少　　　年（光文社）連載中
☆「無風伝」　忍 法 秘 話（青林堂）連載中

小学館発行の「少年サンデー」増大号誌上に好評連載中!!

むささび　（増刊号）　7月13日発売
五　　ツ　（増大号）　7月24日発売

不世出の天才忍者〈カムイ〉が、不変抜刀霞切りに開眼し、さらに、飯綱落しの術を得て、ますます大活躍!!

◎本誌連載の〈カムイ伝〉とあわせてお読み下さい。

講談社発行の「少年マガジン」誌上に好評連載中!!

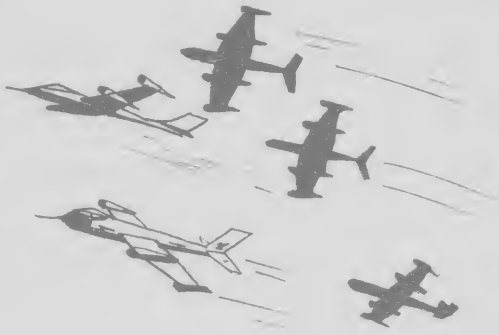
伊賀百地の里に、ふしぎな術をつかう少年と老人がたどりついた。伊賀でも甲賀でもない忍者、第3の忍者とはなにか？　主領だけしか知らない正体不明の掟をあばこうとして、つぎつぎに殺される下忍たち！　タンジンの術、オボロの術をはじめ、毎号あたらしい術を紹介しながら、いつか白土三平先生の世界へ読者をいざなう傑作長篇。

《ガロ》バック・ナンバー特別セール！

39年9月号〜40年1月号　一部　一三〇円
40年2月号〜40年6月号　一部　一五〇円

創刊号から4月号までワンセットそろえてお申込みの方は千円をお送り下さい。特別価格の上、送料も当社負担のサービスセールです。

白土三平先生の《カムイ伝》も号を重ねるにしたがって、いよいよ面白くなってきました。途中からお読みの方は、ぜひバック・ナンバーをそろえて、はじめからお読み下さい。《カムイ伝》は、39年12月号からはじまっています。

なお、〈ガロ〉新刊の予約セールも行なっています。くわしくは、一五九ページをごらん下さい。

世論にもまけず
歴史の流れにもまけず
たとえ、世界中から反対されても
へいきな面(ツラ)をし、
たえず 人のふところをねらい、
すきを見たら のがさず
毎日、ぜいたくなごちそうを
ガバチョとつめこみ
あらゆることを 自分の利益の
ためにだけ考え
非難はきかず
やったことは すぐわすれ
摩天楼の林の中に
ドッカとあぐらをかき
東にやめる国あれば
いって 首をしめてやり
西によくいうことをきくバカどもがいれば
イイ子 イイ子と 頭をなでてやり
南に独立しようとする国あれば
いって じゃまをし
北に内乱があれば おもしろいから
ジャン ジャン ジャン やれといい (武器を売りこみ)

目安箱⑦　ある奴の詩

U.S. AIR FORCE
日照の時はナパーム弾を落し
寒さの雨期には 細菌をばらまき
くち八ちょう て八ちょう
自由を看板に 人をだまし
他人のことは いっさい気にせず
おのれの もうけのためには
手段を選ばない
おれは そんな 奴になりたい
（いや、なっちゃってる）
ミスター A・メリカ
（宮沢先生、すみません、世界平和のためです）

新人募集 第1回入選作発表

〈入選作品〉
4篇
本号掲載
（順不同）

作品	所在	氏名
顔の曲がった男の物語	東京都	星川てっぷ
人々の埋葬・神々の話	兵庫県	つりたくにこ
おちょこで呑まない酒	横浜市	陳 志 明
真 昼	東京都	渡二十四

選後に……

ガロ編集部

かねてより募集中の〃ガロ〃新人作品の第1回発表を行ないます。

今回は、応募作品一二五点の中から、上記の四作品を誌上に掲載いたしました。

選考過程においては、編集部の中でも議論百出、曰く、デッサンの不足、構図等の技術不足、既成作家の模倣、線の混乱、個性の問題、等々……………。

勿論ここに掲載した四篇については、決して満足すべきものではありませんが、この新人募集の目的は、〈埋もれた芽の発見〉にあることを考えて、特にその将来性に重点をおきました。今回選ばれた四人の人達をはじめ、惜しくも選に洩れた多くの人達の今後の努力に大きな夢を托したいと思います。

また、今後も、新しい問題を提起するような意欲的な作品を取り上げてゆく方針です。ひき続いて御応募下さい。

言うまでもなく、誌上に発表される作品の評価は、読者によってなされるべきものです。そこで、10月号には、新人の入選作品に対する読者の批評を小特集したいと思います。左記の要領で、熱意と愛情ある批評をどしどしお寄せ下さい。

一、入選作品に対する批評文
一、四百字詰原稿用紙二枚以内
一、八月末日〆切
一、青林堂「ガロ編集部」宛
一、掲載の分には記念品進呈

▲佳 作▼

一八篇（順不同）　タイトルの下の数字は枚数

タイトル	枚数	所在	氏名
「二刀と一刀」	11	茨城県竜ケ崎市	仲村寛
「ある日のプロローグ」	2	千葉県銚子市	山根勇
「狂った世界」	2	東京都三鷹市	白川仁俊
「赤目犬の島」	28	熊本県菊地市	赤城正子
「落雷」	3	京都市伏見区	阿部良明
「わが心」	9	静岡県三島市	砂樹一
「如来」	13	東京都板橋区	滑川公一
「かんけいない」	2	千葉県市川市	藤田不二夫
「遠入の術」	13	大阪市東成区	石本栄児
「若い歌声」	23	神戸市兵庫区	谷川清美
「一本道」		京都市伏見区	阿部良明
「狂った時間」	12	東京都豊島区	増田義春
「人狼伝」	24	横浜市中区	大谷弘行
「殺し屋の道」	24	東京都葛飾区	佐藤安信
「最後の武器」	8	長野県塩尻市	前田順一郎
「真昼」	5	東京都目黒区	渡辺謙二
「掟の中に二ひき」	10	愛媛県上浮穴郡	石丸達男
「魔海」	15	東京都大田区	山崎敢造

▲選外佳作▼

「「忍び犬」（秋田県 川野孝夫） 他・一〇二篇